

目標協働達成校での取組の姿

第1回 目標協働達成協議会

平成26年4月21日(月)
別府ビーコンプラザ

目標協働達成モデル校の取組

- 具体的に何をやるの？難しいの？

学校の重点目標に学校・家庭・地域の3者で取り組むものです。
学校・保護者・地域それぞれが役割を持ちます。



家庭

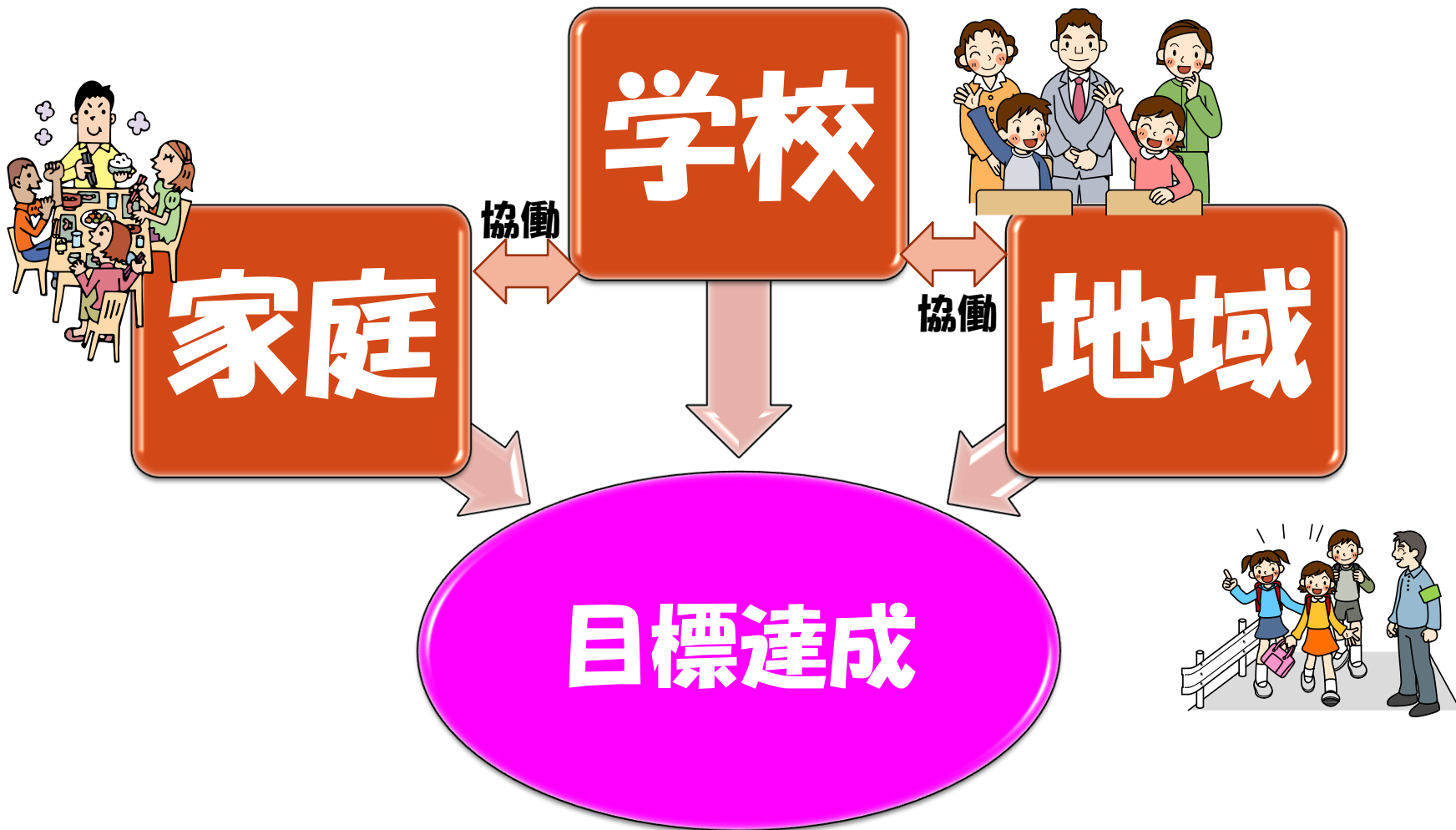
学校

地域

今、学校・家庭・地域はそれぞれで子どもに接しています。



目標協働達成モデル校では学校・家庭・地域それぞれが共通の重点目標に向かって協働で行動します。

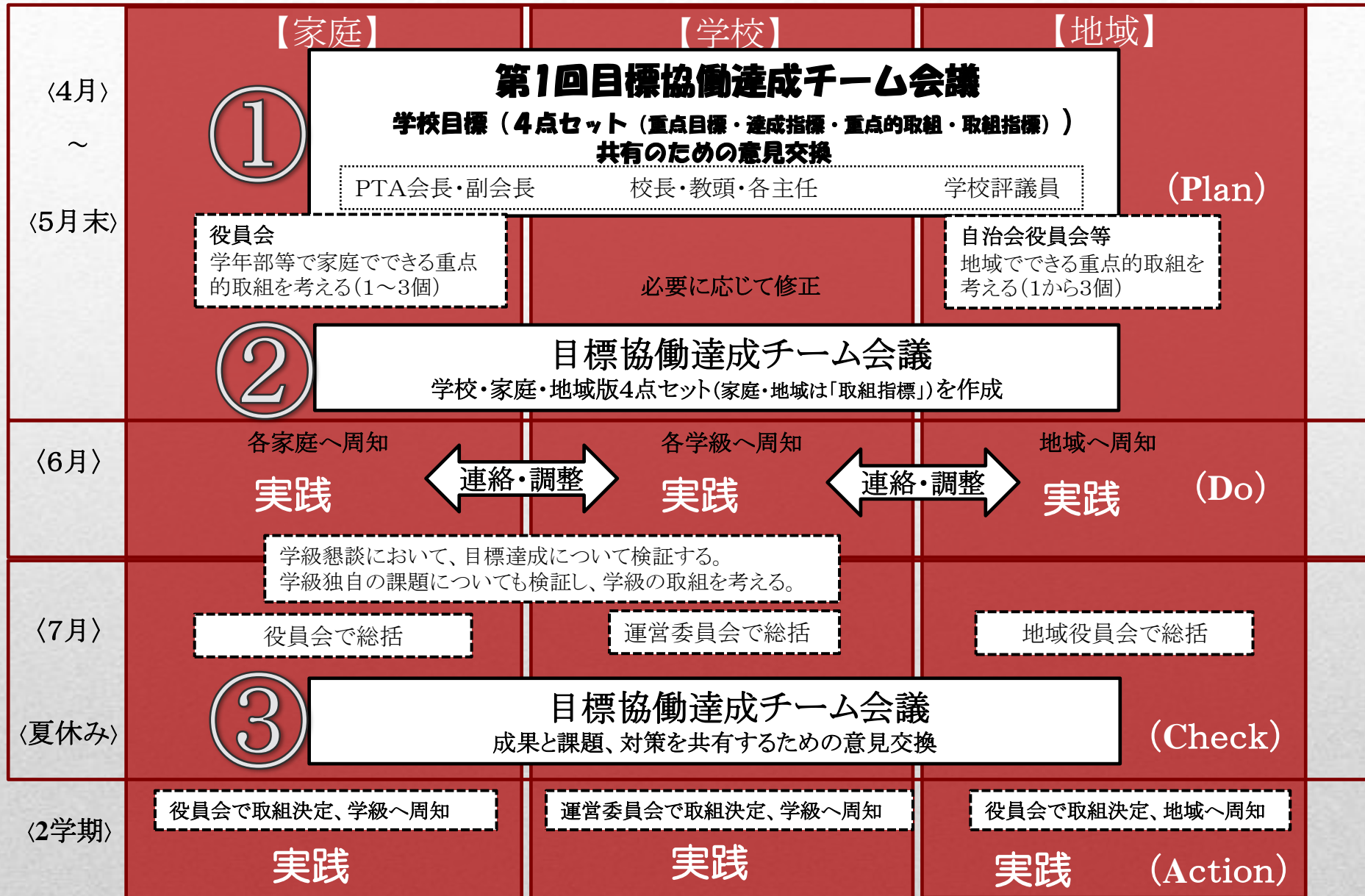


目標協働達成モデル校の取組

実際の取組は？



目標協働達成校のモデルプラン例(1学期)



取組の流れ(1学期) 工程①

新学期
スタート

①

- 学校は、重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標(=4点セット)を決めています。

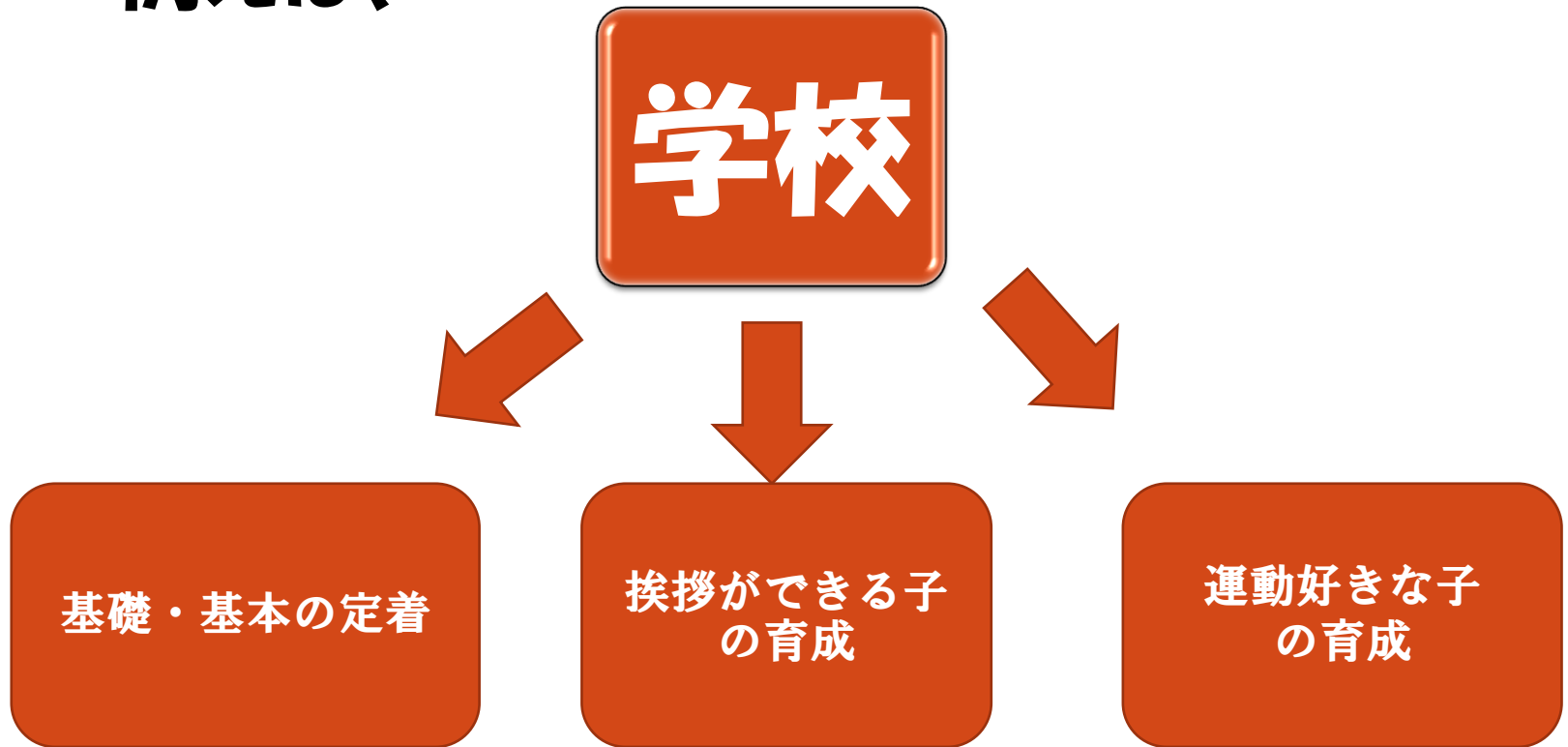
②

③



学校は、重点目標を3つ程度に絞っています。

例えば、



また、学校は、この重点目標の達成状況を測るための達成指標や、重点的取組・取組指標を決めています（4点セット）。

※さらに、取組内容や取組指標は、毎学期末に検証の上、中身をよいものに変えています。

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標
基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○独自のチェックテストを実施し、本年度当初の下位層の割合を年度内に半減する。 ○単元まとめテスト60点未満の割合を半減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての子どもにめあてとまとめが明確にわかる1時間完結型授業を徹底する。 ○スキルタイムを設定し、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が学期に3回以上互見授業に取り組む。 ○スキルタイムを毎日朝読書の後、全教職員で、8:20～8:35の15分実施。 月、水、金→算数 火、木 →国語
挨拶ができる子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民アンケートで「この学校の子どもたちは、挨拶をよくする」と回答した割合が80%以上。 ○積極的に挨拶をしていると答える生徒が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動に取り組む ○あいさつがよくできた子を褒める。 ○あいさつができることの重要性を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎朝5人以上の教職員で、あいさつ運動を行う。 ○どこの学級も、毎週1回は、HRの時間に、よくあいさつできた子を褒める。 ○学校集会や、学年集会の時に、必ずあいさつのことに触れる。
運動好きな子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動や外遊びが好きだ」と答える生徒が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童・生徒が毎日昼休み運動や外遊びをするよう取り組む。 ○家庭と連携して、運動の基礎となる生活習慣の確立に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、昼休みに運動や外遊びをするように促す。 ○各担任が、毎月学校から、朝食を食べる割合の報告をもらい、個別に家族との話し合いをする。

学校の重点目標を踏まえて、

①家庭や地域で取り組める目標は何か、

②何をどれくらい取り組むこととするか

を学校・家庭・地域で協議をしながら決め

ていくことが、最初の課題となります。

取組の流れ(1学期) 工程①

新学期
スタート

①

- 学校は、重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標(=4点セット)を決めています。

②

- 第1回目標協働達成チーム会議を開きます。

③



取組の流れ（1学期） 工程①

第1回 目標協働達成チーム会議

目標協働達成校構成する学校・家庭・地域の代表者が集まって協議をします。

協議の内容（例）

- ・子どもたちの現状は？
- ・学校の課題は？
- ・学校の重点目標とその背景は？
- ・同じ重点目標に向かって、学校・家庭・地域で取り組めそうなことは何だろう？

第1回目標協働達成チーム会議のポイント

①子どもの現状、学校の課題、目標、取組を三者で十分理解すること

②学校・家庭・地域で一緒に取り組む重点目標を決めるか、決め方を固めること

例1：このチーム会議で、学校・家庭・地域で協働して取り組む目標は「挨拶ができる子の育成」に決定する。

例2：どの目標を協働して取り組むかは、家庭（PTA役員会等）や、地域（自治会役員会等）に持ち帰ってそれぞれの中で決めることとする。

※協働して取り組む目標は、三者で1つに絞る方法もあれば、家庭では、「基礎・基本の定着」と「挨拶ができる子の育成」の二つに、地域では「挨拶ができる子の育成」と「運動好きの子の育成」の二つにするような例などもあり得ます。その地域の状況の即して実現可能なものとするのが大切です。

取組の流れ(1学期) 工程①

①

- 学校は、重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標(=4点セット)を決めています。

②

- 第1回目目標協働達成チーム会議を開きます。

③

- 家庭(PTA役員会等)、地域(自治会役員会等)で議論

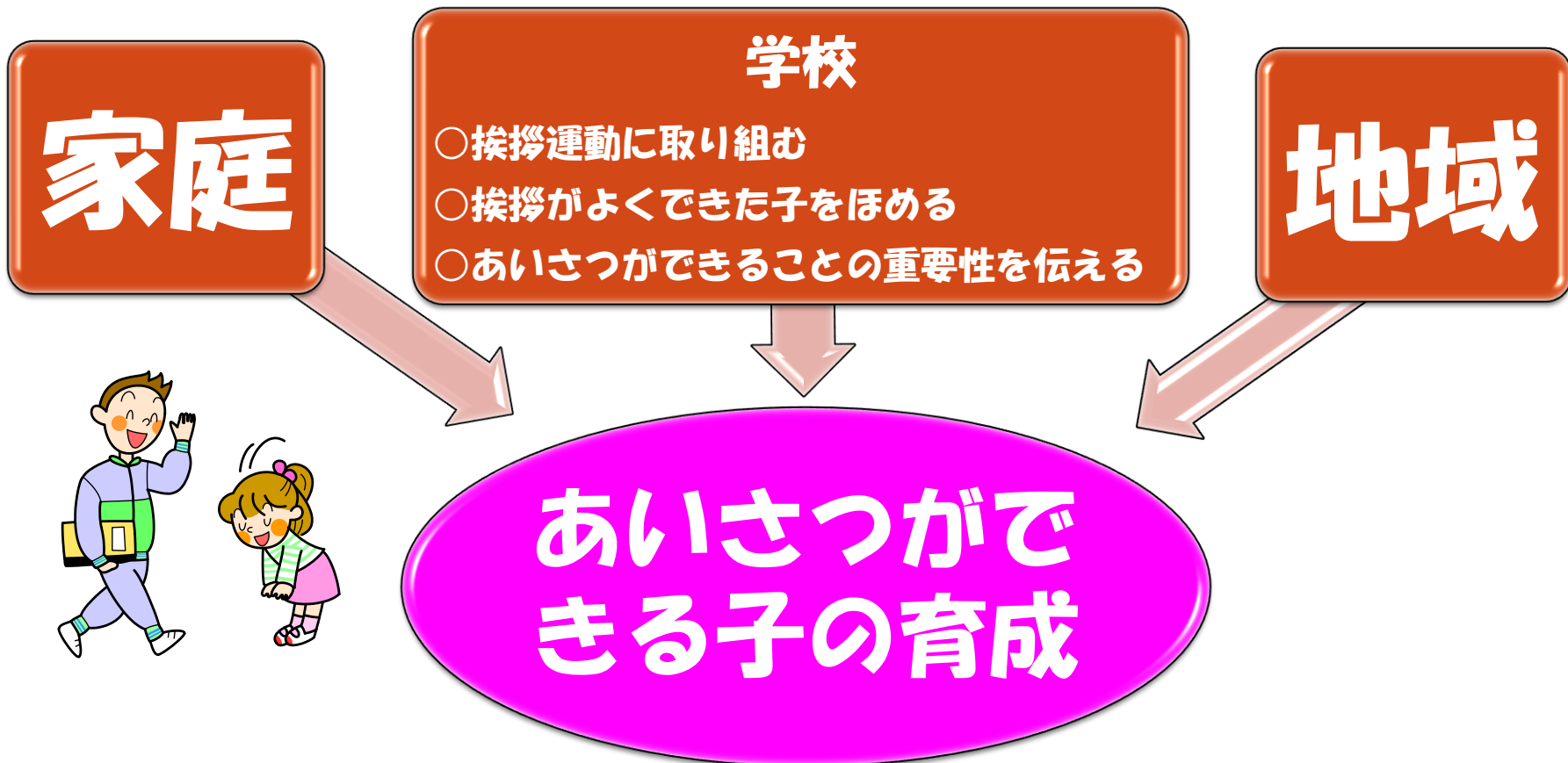


議論の方法

たとえば

チーム会議で、「あいさつができる子の育成」という目標に三者で取り組むとした場合

このモデル校では、この目標に向かって家庭・地域も一緒になって取り組みます。



家庭（PTA・保護者等）は何ができるでしょうか？PTA役員会等で議論の上、取り組むことを決めます。

家庭

2つの視点で考えます。

- ・家庭でできることは何か？
- ・学校と一緒にできることは何か？

学校

地域

あいさつができる子の育成



地域（自治会・町内会等）は何ができるでしょうか？自治会、町内会で議論の上、取り組むことを決めます。

家庭

学校

地域

2つの視点で考えます。

- ・地域でできることは何か？
- ・学校と一緒にできることは何か？

あいさつができる子の育成



例えばこのような取組などが考えられます。

家庭での取組(例)

○家庭でできること

- ・ 毎朝、親から挨拶をする。
- ・ 1週間に1回、挨拶ができたことをほめてあげる。



○学校と一緒にできること

- ・ 保護者の中から人を募り、毎週2回、3人以上があいさつ運動に参加する。

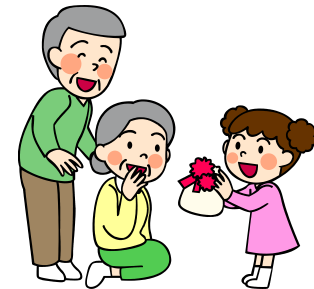
地域での取組(例)

○地域でできること

- ・ 毎日、子どもを見かけたら、誰か1人にでも挨拶をかけてあげる。
- ・ 子どもの通学路に、「あいさつ運動」の看板を増やす。

○学校と一緒にできること

- ・ 学校が子どもをほめられるように、子どもから挨拶されて嬉しかった例を、地域の声として、毎週、学校に届ける。



重要！ キーワード

- 重点的取組と取組指標

学校では、重点目標の達成に向けての取組を「**重点的取組**」として決めた上で、さらにその取組を「誰が」「どれくらい」行うかを「**取組指標**」により設定しています。取組の主体や頻度を決めることで、何を具体的にを行うかが明確になります。

例えば

家庭での取組（例）

○家庭でできること

- ・ 親から挨拶をする。
- ・ 挨拶ができたならほめてあげる。

○学校と一緒にできること

- ・ 学校のあいさつ運動に参加する。

誰が、どれくらい行うかが決まっていない(重点的取組は決まっているが、取組指標が決まっていない)ため、結局、どう具体的に実行に移せばいいのかが不明確なまま。

例えばこのような取組などが考えられます。

家庭での取組(例)

○家庭でできること

- ・ 毎朝、親から挨拶をする。
- ・ 1週間に1回、挨拶ができたことをほめてあげる。

○学校と一緒にできること

- ・ 保護者の中から人を募り、毎週2回、3人以上があいさつ運動に参加する。



取組指標まで決めると、行動の中身が明確に！

ポイント

- **重点的取組と取組指標**

どういふことができるか、色々なアイデアを出した上で(重点的取組)、その中から、実際にできることを選んで、行う主体や頻度までも決める(取組指標)という**二段階のステップ**を踏むことが大切です！

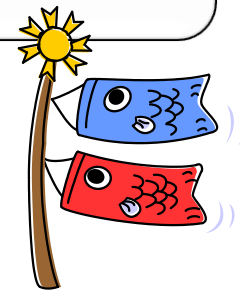
取組の流れ(1学期) 工程②

④

- 第2回チーム会議で学校・家庭・地域版の重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標(=4点セット)を決定・確認します。

⑤

⑥



家庭・地域で決定したことを持ち寄り学校・家庭・地域による「協働4点セット」を完成させます！

協働4点セット

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標
挨拶ができる子の育成	<p>○地域住民アンケートで「この学校の子どもたちは、挨拶をよくする」と回答した割合が80%以上。</p> <p>○積極的に挨拶をしていると答える生徒が90%以上</p>	学校	<p>○挨拶運動に取り組む</p> <p>○あいさつがよくできた子を褒める。</p> <p>○あいさつができることの重要性を伝える。</p>	<p>○毎朝5人以上の教職員で、あいさつ運動を行う。</p> <p>○どこの学級も、毎週1回は、HRの時間に、よくあいさつできた子をほめる。</p> <p>○学校集会や、学年集会の時に、必ずあいさつのことに触れる。</p>
		家庭	<p>○親から挨拶をする。</p> <p>○挨拶ができたらほめてあげる。</p> <p>○学校のあいさつ運動に参加する。</p>	<p>○毎朝、親から挨拶をする。</p> <p>○1週間に1回、挨拶ができただけをほめてあげる。</p> <p>○保護者の中から人を募り、毎週2回、3人以上があいさつ運動に参加する。</p>
		地域	<p>○子どもを見かけたら、挨拶してあげる。</p> <p>○「あいさつ運動」の看板をつくる。</p> <p>○地域の声を学校にとどける。</p>	<p>○毎日、子どもを見かけたら、誰か1人にも挨拶をかけてあげる。</p> <p>○子どもの通学路に、「あいさつ運動」の看板を増やす。</p> <p>○学校が子どもをほめられるように、子どもから挨拶されて嬉しかった例を、地域の声として、毎週、学校に届ける。</p>

第2回チーム会議までの流れを、5月末までにできれば上々の滑り出しです。

特に、学校においては、

学校・家庭・地域の協働で作成した「**協働
4点セット**」を全ての学級を含め、学校全体で共有することが大切です。

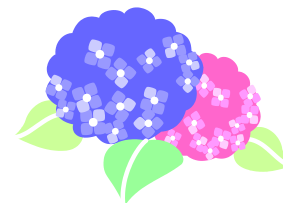
取組の流れ(1学期) 工程②

④

- 第2回チーム会議で学校・家庭・地域版の重点目標、達成指標、重点的取組、取組指標(=「協働4点セット」)を決定・確認します。

⑤

- 上記の取組をそれぞれの立場で学校全体、家庭、地域へ伝え、取組の実践を行います。



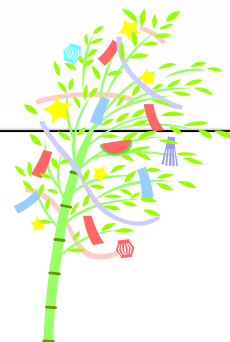
取組の流れ(1学期) 工程③

⑥

- (1学期の終わり) 運営委員会(学校)や、PTA、地域のそれぞれの役員会で1学期の総括を行います。

⑦

⑧



取組の流れ(1学期) 工程③

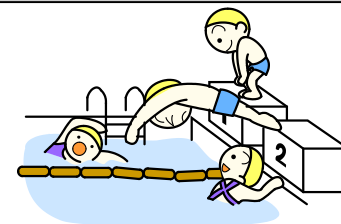
6

- (1学期の終わり) 運営委員会や、PTA、地域のそれぞれの役員会で1学期の総括を行います。

7

- 第3回目標協働達成チーム会議を開き、成果と課題、対策を共有するための意見交換を行います。

8



学校・家庭・地域での総括や第3回目標協働達成チーム会議での協議の際のポイント

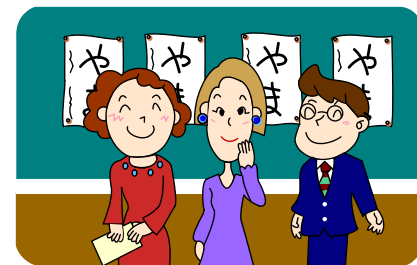
以下の点について話し合います。

- ・ 重点的取組、取組指標により決めたことに実際に取り組めたか？
- ・ その取組により、重点目標は達成できつつあるか？
- ・ 次の学期は何に取り組むのか（同じ内容か、或いは、変えるか）

**学校・家庭・地域それぞれのがんばり
をお互いに確認して、次の取組につな
げる建設的な場にしてもらえればと思
います。**

学級懇談会の活用

特に、学級と家庭間の連携については、学級懇談会で「協働4点セット」を取り上げ、取組状況を話し合うことも考えられます。



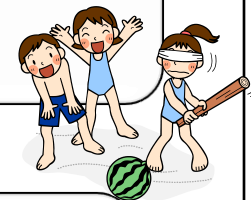
取組の流れ(1学期) 工程③

6

- (1学期の終わり) 運営委員会(学校)や、PTA、地域のそれぞれの役員会で1学期の総括を行います。

7

- 第3回目標協働達成チーム会議を開き、成果と課題、対策を共有するための意見交換を行います。



8

- 第2学期の連携した取組を進めます。

取組の流れ（2学期） 工程④

9

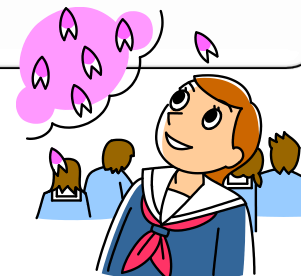
- 第2学期末に第1学期末と同様の総括を行います。

10

- 第3学期の連携した取組を進めます。

11

- 第3学期末に、1年間全体を振り返っての総括を行います。



★全体を通して

- この取組の旗振り役は、学校です。
- 学校は子どもたちの状況や学校の4点セット、学校が感じている課題を、家庭・地域としっかり共有して下さい。
- そして、子どもたちのよりよい育ちに向けて、学校としての取組を進めるとともに、三者が連携していけるようコーディネートを行って下さい。

目標協働達成モデル調査研究事業 (2ヶ年事業) 年間の流れ

<4月>

第1回 目標協働達成協議会《全体会》本日

※協働達成のための共通理解 ※グループ討議による取組協議

調査研究
委員会

目標協働達成校ごとに取組を展開
※目標協働達成チームによる、実践・検証・改善

第1回

<9月~12月>

第2回 目標協働達成協議会《地域別》

<中津管内>

<別府管内>

<大分管内>

<佐伯管内>

<竹田管内>

<日田管内>

可能な限り参加

※管内ごとに取組の事例を出し合い、成果や課題等を共有する

目標協働達成校ごとに取組を展開
※目標協働達成チームによる、実践・検証・改善
→ 中間まとめ

第2回

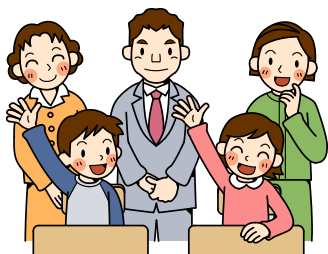
<3月>

第3回 目標協働達成協議会《全体会》

※取組の総括・発表 ※次年度への取組改善検討

可能な限り参加

皆様のご協力をお願いします！



ご静聴ありがとうございました。